



# 岡山県真庭市立 落合小学校

## 単元のまとめで活用！

### ～ eライブラリが学習を「つなぐ」～

落合小学校では、単元のまとめにeライブラリのドリルを活用しています。今回は、eライブラリを活用した6年生の授業の様子と先生の指導のポイントをご紹介します。

#### 歴史の流れを意識しながら問題に取り組む



▲ 友達同士で教え合いながら問題を解く

児童は、前時の学習内容をふりかえり、出来事やそれが起こったきっかけを考えながら、とても楽しそうに学習していました。

#### 社会 単元：新しい日本へのあゆみ

この日は、単元のまとめにeライブラリのドリルで復習をしました。児童は、先生から指定された教材を選び、ドリルに取り組みます。

「社会科の場合、出題された問題に取り組むときは、前の時代に、どのような出来事があったかを考えることで、歴史の流れがつながり、理解が深まります。eライブラリは、つまずきを見つけるのに役立ちます。」と二宗先生。

#### 個別学習と先生の机間指導で確実に定着



一人で問題を解き、これまでに学習してきた内容が理解できているかを確認する。



先生オリジナルプリントを貼り付けたノートで、要点を確認して問題に取り組む。



挑戦（発展）問題は、個別に先生へ質問し、問題に取り組む。



つまずいた問題は、解説やノートで要点を確かめ、リトライ機能で再チャレンジ。

#### インタビュー eライブラリを使うねらいとふりかえり

eライブラリは、社会科の単元のまとめや国語科の漢字の学習で使っています。子どもたちは、学習内容を理解できているつもりになっていたりと、間違っ覚えていたりすることがあるため、それらを自分で気づかせることをねらいに繰り返し活用しています。

ドリルを使った後のふりかえりを通じて、私自身も、**子どもたちが「どこにつまずきがあるのか」「どのように授業を進めたら、わかりやすい授業ができるのか」などを知ることができました。**今回の単元では、年表や地図帳を用意した方が良かったとわかったので、次の授業に活かしていきたいと思っています。



6年担任  
二宗 謙次 先生

## 授業のまとめは、ふりかえったことと気づきを共有



▲ ふりかえったことを、全体でも共有する

**ねらい** ふりかえり、ドリルのつまずきを共有し、次の学習に活かす。

授業のまとめは、ドリルでつまずいた問題から「どの問題をどのように間違えたか」「リトライや解説から何を学んだか」「どのように学んだら、間違いを防げるか」をペアでふりかえります。児童には、ふりかえりの習慣が定着しており、次の学習に活かせる、さまざまな意見が挙がり、全体でも共有しました。

### 児童の意見とふりかえり

- 出来事の名前と内容は覚えていたけど、年号を覚えていなかったことがわかった。  
→ 歴史はつながっているから、何年の出来事が何をきっかけで、何年後の出来事につながっているかを意識してしっかりふりかえりをするようにしたい。
- 出来事の内容と、それに関わった人物の名前は覚えていたけど、出来事が起こった順番を覚えていないことに気づいた。  
→ 年表を見て、出来事が起こった順番を整理しながら復習していきたい。
- 四大公害病の問題で、4つの公害病の名前は覚えていたけど、公害病が起こった場所を地図から答えることができなかった。  
→ 公害病を覚えるときは、地図で場所も確認して覚えていきたい。

### eライブラリ活用のねらい

- ドリルを使った後のふりかえりを通じて、児童自身がどこにつまずきがあるのかを見つける。

### 先生の工夫

- つまずいた児童へ、歴史が現在の生活に結びついていることを伝えるために、机間指導では歴史の流れを解説して問題に取り組みせ、児童の理解を深めている。

## インタビュー 学校の教育方針とeライブラリのつながり

子どもたちの人格の完成を目指し、本校では、「知・徳・体のバランスのとれた子」を育てるために職員が一丸となって学校経営をしています。子どもたちへ、「頑張ったらできる」「努力は報われる」と伝え続けることで、さまざまな体験が「自信」につながっています。今では子どもたちの「心」も大きく成長し、今回の授業で見られた、仲良く学び合う姿勢にもつながっています。

eライブラリは、**子どもたちが自由進度で学習できるため、同じ教材でも30人いたら30種類の観点や学習の仕方が生まれ、個に応じた学習活動につながれるところが良いと思います。**

日頃の指導や保護者の協力もあり、子どもたちは家庭学習の習慣が身につく、予習をしている子どもたちも増えています。今後は、eライブラリと家庭学習を「つなげて」、予習・復習にeライブラリのドリルや解説教材などを活用していきたいと考えています。



校長  
奥山 仁 先生